

南 丹 市 バ イ オ マ ス 活 用 推 進 計 画

平成 28 年 3 月

南 丹 市

目 次

1	南丹市の概要	1
2	計画策定の目的	
2.1	南丹市の目指すすがた	1
2.2	活用推進計画の目的	3
3	計画の期間	4
4	バイオマスの活用の現状と目標	
4.1	これまでの取り組み	4
4.2	活用状況	5
4.3	バイオマス利用の課題等	11
4.4	バイオマスの利用目標	13
5	バイオマスの活用に関する取組内容	
5.1	目標達成のための取組方針	14
5.2	具体的な取組内容	16
5.3	取組工程	21
6	バイオマスの利活用推進体制	22
7	地域推進計画の中間評価と事後評価	22

1. 南丹市の概要

本市は、京都府のほぼ中央部に位置し、総面積 616.31km²（京都府の 13.4%）であり、京都府内では京都市に次ぐ広さを有している。京阪神の主要都市からも近く、高速道路や鉄道などの広域交通網が充実している。他方、緑豊かな自然に恵まれた地域で、市域の 88%に相当する約 540km²を丹波山地が占め、北部を由良川が、中・南部を淀川水系の桂川（大堰川）が流れ、その間に標高 100m 程度のいくつかの山間盆地が形成され、南部は亀岡盆地につながっている。本市の人口は約 33,000 人であり、製造業や医療・福祉、卸・小売業、農林業が主な産業となっている。

本市における主要な地域資源としては、豊かな自然環境、都市圏への交通環境、高付加価値の農業生産、自然や文化の観光資源などがあげられる。



図 1-1 南丹市位置図

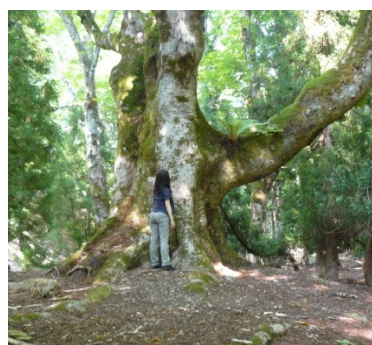


図 1-2 芦生の森



図 1-3 農産物



図 1-4 美山かやぶきの里

2 計画策定の目的

2.1 南丹市の目指すすがた

（1）市民主導のまちづくり

本市は、豊かな自然と日本のふるさとともいえる風景に抱かれながら、都市近郊という立地を活かして、産業や教育、福祉・保健・医療の充実を図ってきた。総合振興計画において、これからは、家庭や地域、企業や学校、そして行政といったそれぞれの立場で、一人ひとりがまちづくりの担い手であるという自覚をもって、お互いに支援し協力しあう仕組みを構築することとしている。そのため、「みんなの笑顔元気を合わせ 誇りときずなで未来を創る」を“まちづくりのテーマ”として、住んでいる地域や世代を超え、まぶしい笑顔、そしてやる気いっぱいの元気を合わせて、誇りときずなを大切に、いつまでも生きがいをもって安心して定住できる、未来の南丹市をみんなで創造することとしている。また、10 年後の本市の姿を「森・里・街がきらめくふるさと南丹市」とし、私たちの誇りであり、長い時間の中でつくられてきた暮らしの舞台である、ここにしかない「森」「里」

「街」に磨きをかけ、これから大きく変わろうとする時代にきらめく、いつまでも住み続けたいふるさtoを目指している。

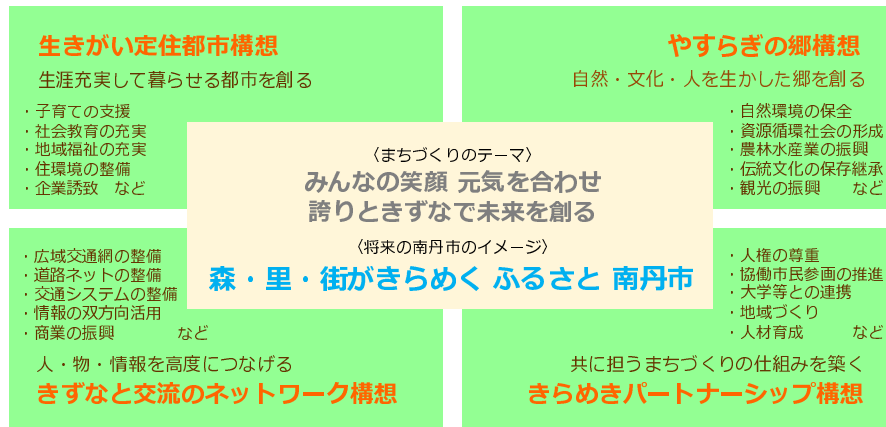


図 2-1 南丹市総合振興計画基本構想

(2) 地域特性を踏まえたまちづくり

本市では、各地域の産業、自然、歴史、文化資源やこれまでのまちづくりの蓄積を十分に活かした地域整備、市街地整備を図ることを目的として、自然環境に配慮した適切な土地利用の誘導を図る「ゾーン」、地域活動の基盤となる「拠点」、さらにまちの骨格となる「交流軸」を位置づけ、以下のように将来のまちのすがたを示している。

■ゾーン形成

市を《ふれあいの森ゾーン》《やすらぎの田園ゾーン》《にぎわいの市街地ゾーン》《癒しの里山ゾーン》の4つに区分し、それぞれのゾーンが持つ特色を踏まえた地域整備を行うこととしている。ふれあいの森ゾーンでは、芦生原生林等の豊かな自然環境、重要伝統的建造物のかやぶき民家群を保存・活用した都市農村交流を中心とした地域おこしなど、やすらぎの田園ゾーンでは、南丹市八木農村環境公園や南丹市八木バイオエコロジーセンター（YBEC）などの施設を活かした農・畜産ブランド化の推進などの産業振興など、にぎわいの市街地ゾーンでは、交通の利便性を活かした企業誘致の推進、地元商業の活性化など、癒しの里山ゾーンでは、景勝地るり溪高原などの四季を通じて楽しめる自然と温泉を生かした、観光とレクリエーションを中心とした地域整備などを進める。

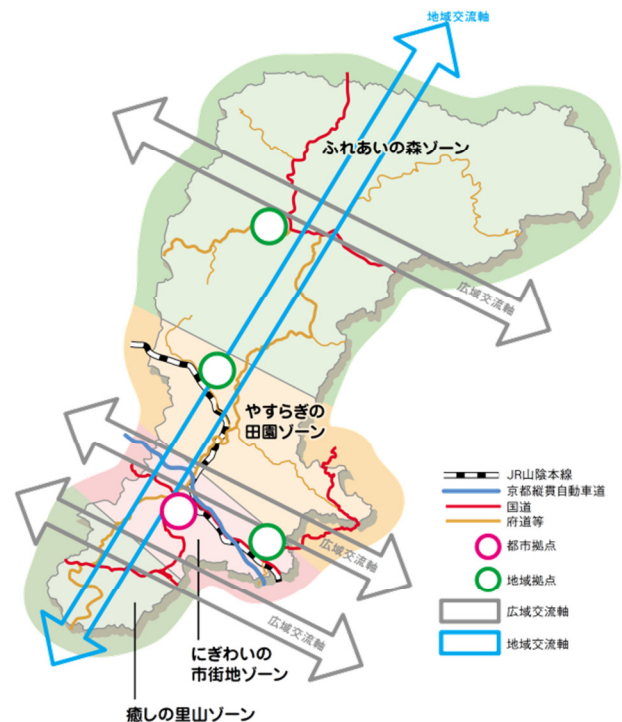


図 2-2 将来のまちのすがた構想図

■拠点形成

広域交流軸沿線にあって、商業や医療、行政サービス施設が集積する園部の市街地を中心とする地域を都市拠点と位置づけ、市街地整備による多様なサービスの集積を図る。また、八木、日吉、美山地域の暮らしの中心となる地域を、都市拠点と連携しながら行政サービスと住民活動を支援する機能の集積を図る地域拠点として位置づけている。

■交流軸形成

《広域交流軸》

京都縦貫自動車道、国道9号、162号、372号、477号の広域幹線とＪＲ山陰本線を「広域交流軸」と位置づけ、活発な交流と物流を促すための整備を促進する。

《地域交流軸》

地域間を連絡し、主軸幹線と鉄道・高速道路などをつなぐ市内の主要な府道、市道および広域農道を「地域交流軸」と位置づけ、安全で安心できる道づくりを進め、地域住民の交流を促進する。

2.2 活用推進計画の目的

南丹市総合振興計画や南丹市環境基本計画等において、従来の大量生産、大量消費、大量廃棄型のライフスタイルを見直し、環境負荷の低減に努め、限りある資源を大切に活用することで、将来にわたり良好な暮らしを保つとともに、まちの持続的な発展を目指すこととしている。

バイオマス活用推進計画においても、市民、事業者、市などそれぞれが、ごみの減量化、再資源化を進めることにより、住みよいまちづくり、地域産業の活性化を図る。また、現在既に行われている市民主体の振興会でのまちづくりの取り組みやNPO法人主体の地域資源利用の取り組みを進めるとともに、それらと農林業や地域づくりを有機的に連携させることにより、資源循環を通じた地域活性化が図られるよう地域、事業の繋がりを構築する。

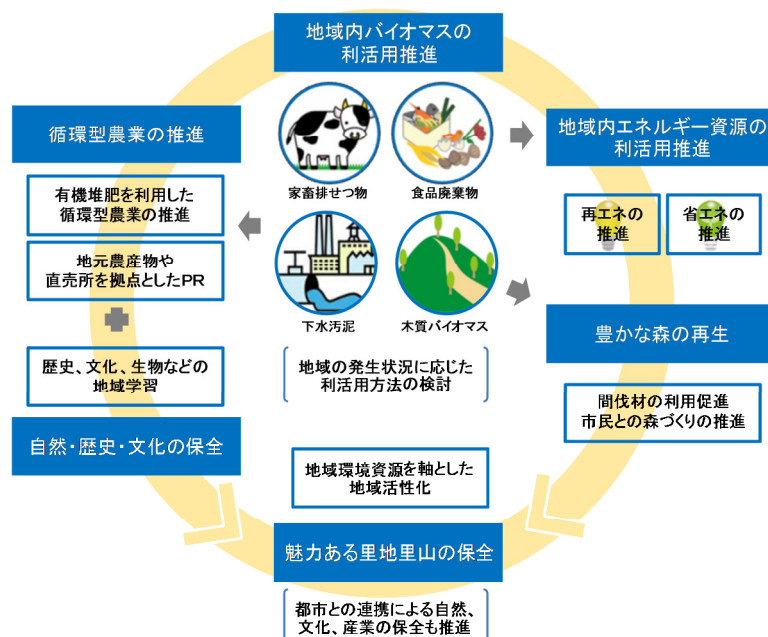


図 2-3 バイオマス活用イメージ図